

# 小学5年1組 家庭科学習指導案

指導者 竹 吉 昭 人

これまでの学習やお手伝いの実践をいかして、夏休みの仕事計画をよりよいものにするために、考えたり、調べたりする視点をグループや学級全体で話し合う場面を設定したことは、子どもたちが我が家なりの実践の方法を見いだそうとすることに有効であったか。

## 1 題 材 名 自分にできる家庭の仕事を考えよう

## 2 題材のねらい

これまでの学習や各家庭でのお手伝い実践をいかして、夏休みに各家庭で実践する仕事計画を立てることで、家族の一員としての自覚をもち、主体的に家族と協力して家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を身に付ける。

## 3 授業の構想

(1) 以下に示すふりかえりは、家庭科学習の初まりにあたって、小学校の2年間の学習を見通し、家庭科という教科で何を学んでいくのか考えたガイダンス的な内容を実施した時のものである。

家庭科の授業で、ふだんの生活から家庭科で学習することを考えてみて、やっぱり日ごろからいかにすることで、まとめてみると家事によくつながることなんじゃないかなと思いました。これからやっていく中で、物を作ったり、お手伝いでいかせたりできるようにになりたいと思います。(児童A)

子どもたちは5年生から始まる家庭科の学習をとっても楽しみにしている。「ふだんの生活から家庭科で学習することを考えよう」を学習のめあてとして、ガイダンス的な内容の学習を行った。子どもたちからは、「作る」ことへの期待感が多く挙がり、改めて調理や裁縫は家庭科学習の魅力の一つであることが明らかになった。加えて、家庭生活に目を向け、家庭生活を送るためには何が必要かイメージマップを作りながら考えた。すると、「作る」だけでは家庭生活が成り立たないことに気付いた。例えば、「食事を作る」ためにも、食材を購入したり、生産したりしなければならない。献立を考え、作るためには水やガス・電気、調理器具なども必要である。また、料理をする人や作る相手(家族)のこともある。このように、家庭生活は様々なヒト・モノ・コトが密に関係し合って成り立っていることに気付くことができた。家庭科の学習が、よりよい家庭生活を目指すために、ただ作るだけではなく、作ることも含めて、このようなヒト・モノ・コトについても考えていく教科だという新たな発見をすることができた。このことで、児童Aのように、家庭科の学習は「ふだんの生活からいかにすること」としてとらえることができ、これからの学習と家庭生活をつなげていこうとする意欲を高めているところである。

(2) 本題材は、1学期の学習のまとめとして位置付け、夏休みに各家庭で実践する仕事の計画を立てる。子どもたちには、これまでの学習や、学習を通して実践してきた各家庭でのお手伝いなどをいかして、(1)で述べたように、家庭科の学習をこれからの家庭生活へ役立てていきたいという願いがある。この思いをつなげ、家族の一員として主体的に家庭生活に関わる「仕事」として計画表に表したり、夏休みに実践したりすることで、家庭生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育むことのできる題材だと考える。学習を通して身に付けてきた知識や技能を家庭生活の中でやってみたいと思いつながりながら、普段はなかなか実践する時間や機会が見いだせない子どもたちも多い。そこで、夏休みという時間的にゆとりがある期間に活動を設定することで、子どもたち一人一人が各家庭の実態に応じて、こだわりをも

ちながら仕事を計画することができるのではないかと考える。よって、自分にできる仕事を考えることを核となる課題として設定した。そして、自分にできる仕事を計画する中で、グループや学級全体で話し合うことを大切にしながら、仕事をただこなすのではなく、よりよい仕事ができるために問題点を明らかにしていく。それが、生活の中の課題を多面的にとらえることとなり、本題材における子どもたちが追求していく問いとなる。このようにして、子どもたちが、生活の中の課題に対する「問う」力を育成したい。自分で考え、仲間と共に話し合う中で解決方法を見いだしたり、試行錯誤を重ね解決方法を工夫したりするような追求する場面を大切にしていきながら、題材のねらいや、家庭科として願う子どもの姿に近付けていきたい。

- (3) 本題材を展開するにあたっては、まず、これまでの学習を通して自分たちができるようになったこと、考えるようになったことを振り返り、自分の成長に気付けるようにする。また、普段の家庭でのお手伝いや、学習したことをいかして実践したことを記録する「家庭科日記」を見返しながら、自分が主体的に家庭生活と関わっていることや、そのことで家庭生活がよりよくなっていることに気付かせ、これらを価値付けていく。このことで、これからも主体的に家庭生活と関わっていこうとする意欲を高め、本題材における子どもの追求の原動力としていきたい。具体的に夏休みに実践する自分にできる家庭の仕事を考えていく場面では、何をやるかだけでなく、どうしたら自分の家族や家庭生活のためによりよく実践できるかを問いとして追求していく。「家族が喜ぶためにはどうしたらよいだろうか」「できるだけ毎日継続するためにはどうしたらよいだろうか」など考えていくことで、仕事に対して家族の好みや効率性などの視点で問題点を見いだすことができる。これを生活の中の課題を多面的にとらえる姿ととらえ、解決していこうとする子どもたちの姿を大切にしていきたい。

本時では、夏休みに実践する仕事に対して、よりよく実践するために必要なことや調べていきたいことを考える。その仕事を実践することで家庭生活がよりよくなることを目指して追求する中で、グループや学級全体で話し合い、話し合いの内容を掘り下げながら、よりよくするための視点を見いだしたことを価値付けていく。このように、家庭生活に主体的に関わろうとする姿を認め、子どもたちの意欲を高めながら、次時への学習や計画作り、家庭での実践につなげていきたい。

#### 4 展開計画（全7時間 本時3／7）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	1学期の家庭科の学習を振り返り、夏休みの仕事計画を立てよう。	1  2 ③  4・5  6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の学習からできるようになったことや考えられるようになったこと、実際に各家庭で実践してきたお手伝いなどを振り返り、学習の成果や家庭での実践に対して自分の成長に気づき、これからの学習に対しての意欲と見通しをもつ。</li> <li>・夏休みに実践したい仕事を考える。</li> <li>・考えた仕事を自分の家庭に応じてよりよく実践するために必要なことや、調べていきたいことなど考える。</li> <li>・自分の家庭に応じたよりよい仕事ができるように、調べたり実際にやってみたりする。</li> <li>・調べたり、実際にやってみたりしたことをまとめ、夏休みの仕事計画を立てる。</li> </ul>
2	夏休みの仕事を振り返ろう	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに実践した内容を報告し合い、これからの生活につなげていこうとする態度を育む。</li> </ul>

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

考えた仕事を自分の家庭に応じてよりよく実践するために必要なことや、調べていきたいことを考えることができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 自分の考えた仕事を発表し合い、なぜその仕事をしようと考えたか思いを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「洗濯物をたたんだり、しまったりする」ことをしようと思っている。いつもは親にやってもらっているのに、夏休みは時間がありそうだから家族のもやってあげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がやろうとしている仕事に対する子どもたちの思いを引き出すことで、これからの活動の原動力としていく。</li> <li>考えた仕事や、やろうと思ったことについて価値付けるとともに、具体的な方法や実施しようとしている場面など問うことで、本時のめあてにつなげる。</li> </ul>
<p>夏休みの仕事をよりよくやっていくために、考えたり、調べたり、やってみたりしたいことを考えよう。</p>	
<p>2. 仕事に対する課題を様々な視点から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのようにたたむときれいに見えるか。</li> <li>たくさんの洗濯物を素早くたたむ方法はないか。</li> <li>家族はどのたたみ方が好きだろうか。</li> </ul> <p>3. 課題に対する解決方法を導き出すための手段を考え、次時の学習の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に色々なたたみ方を試してみて、どれが一番きれいにたためるか、早くたためるか確かめる。</li> <li>家のタンスを調べたり、家族に聞いたりして、我が家のたたみ方を確認してくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1で発表された仕事から、どのような視点が考えられるか学級全体で話し合う中で、自分が考えた仕事に対して家族の好みや効率性など多面的に考えていくヒントとなるように板書に整理していく。</li> <li>学級全体や小グループなど話し合う場を、子どもの思考の深まりや願いに応じて設定することで、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞き、取り入れたりしながら、自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>これまでの学習の成果を振り返りながら考えられるように、ワークシートや作品、教室掲示をまとめておく。</li> </ul>
<p>4. 本時をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>私は、洗濯物をたたんだり、しまったりしようとしているんだけど、改めて考えると、いつもてきとうにたたんだりしていたので、どうしたらきれいにたためて、家族も気持ちよくなったり、何がどこにあるか一目で分かたりできるか考えて、夏休みにはしっかりできるようにしていきたいです。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">— 評価の観点（生活を工夫し創造する能力） —</p> <p style="text-align: center;">夏休みの仕事をよりよく実践するために必要なことや調べていきたいことを様々な視点から考えることができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> <p><b>支援</b></p> <p>学習形態を工夫することで、友だちの意見や考え方を取り入れやすくする。</p>

### (3) 本時で目指す子どもの姿

◎よりよい実践ができるように、自分が考えた仕事に対する課題を色々な視点から見付けていこうとする姿。

◎課題の解決に向けて、どのように調べたり、考えたりしていけばよいか、友だちの考えを取り入れたり、参考にしたりしながら自分の計画を練っている姿。